



中小企業診断士は、経営コンサルタントとして唯一の国家資格であり、公的支援機関において重要な役割を担うべき専門家である。しかしながら実態として、「公的支援機関がどのような業務を担い、診断士がどう関わっているのか」という全体像が見えにくく、接点を持つ機会も限られているのが現状である。

本特集では、公的支援機関との協働の実情や信頼関係の構築プロセス、さらには診断士が価値を発揮しうべき領域について丹念に掘り下げる。各章の構成は、国・都道府県・地域・専門領域といった階層に沿って整理し、公的支援の仕組みを体系的に理解できるよう工夫している。

本章では、公的支援の全体像を俯瞰的に整理し、読者が自身のキャリアをいかに公的支援領域で生かすかを考える、その契機となることを意図している。

1 公的支援機関全体像の理解

(1) 公的支援機関の構造とは

中小企業支援を担う公的支援機関は、国の政策立案から現場での個別支援に至るまで、重層的な

ネットワークを形成している。このネットワークは、中小企業が抱える多様な経営課題に対応するため、機能と地理的なカバレッジに応じた役割分担がなされており、わが国の産業基盤を支える重要なインフラとなっている。

そもそも公的支援機関とは、国や地方自治体が設立・運営する、中小企業の経営をサポートする組織の総称である。営利を目的とせず、中小企業の経営課題の解決、事業の成長、雇用の安定などを支援することをミッションとしている。経営相談から資金調達、人材確保、技術開発、海外展開まで、企業経営のあらゆる局面で専門的なサポートを提供しており、全国に張り巡らされたネットワークを通じて、どの地域の企業でもアクセスしやすい体制が整えられている。

公的支援機関を活用する最大の利点は、無料または低コストで質の高い支援を受けられることにある。各分野の専門家が支援にあたるため、経営課題に応じて最適なアドバイスを得ることが可能である。さらに、公的支援機関は相互に連携していることから、一つの窓口に相談すれば、必要に応じてほかの専門機関を紹介してもらえる体制となっている。

(2) 支援機関の4つのレイヤー

公的支援機関を正しく理解するためには、その全体像を体系的に把握することが欠かせない。本特集では、公的支援機関を「設立主体と支援範囲」という軸で4つのレイヤーに整理した。国、都道府県、市町村・商工団体、そしてテーマ特化型という階層構造である。

31ページの図表2では、各レイヤーにおける主要機関の役割と、診断士の関与状況を整理している。各機関の「役割・機能・支援対象」と「診断士の関与状況」を横断的に確認することで、自身の専門性や経験がどの領域で価値を発揮しうかが見えてくる。

2 公的支援機関における診断士の位置

(1) 診断士の幅広い役割

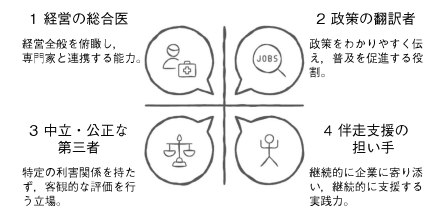
診断士は、「中小企業支援法」に基づき、経済産業大臣が登録する国家資格者であり、中小企業者の経営資源に関し、適切な診断及び助言を提供する専門家である。

その役割は、企業の成長戦略の策定から、具体的な経営計画の立案、実行支援、その後の経営環境の変化を踏まえた継続的な支援まで多岐にわたる。さらに、企業と行政・金融機関等をつなぐパイプ役、中小企業施策の活用支援など、幅広い活動が求められている。

(2) 公的支援機関から依頼される主な業務形態と期待される特性

公的支援機関において診断士が担う業務は多岐にわたる。専門家派遣による個別指導、事業計画策定支援、経営相談窓口対応、補助金審査委員や事業評価委員といった政策実行支援、中小企業活性化協議会における事業再生・改善支援などが挙げられる。

図表1 公的支援機関が診断士に期待する4つの特性



筆者作成

こうした業務を担ううえで、公的支援機関は診断士に対して、次の4つの特性を期待している（図表1）。

「経営の総合医」（ジェネラリスト）として経営全般を俯瞰し真の課題を見極める能力、「政策の翻訳者」として制度を企業にとってわかりやすく伝える役割、「中立・公正な第三者」として客観的な診断・評価を行う立場、そして「伴走支援の担い手」として計画策定から実行・検証まで継続的に支援する実践力である。

これらの特性は、診断士が「唯一の経営コンサルタントに関する国家資格」であることに基づいている。弁護士、税理士／公認会計士、社会保険労務士など、それぞれの士業が専門領域で高度な知見を発揮する一方、診断士は経営全般を扱う専門家として位置づけられている。この役割が、公的支援の現場において各分野の専門家との協働を円滑にし、支援の質を高める基盤となっている。

(3) 求められるスキルセット——専門性と人間力の両輪

公的支援機関が診断士に期待しているのは、経営知識や分析力といった専門性だけではない。本特集の取材を通じて一貫して浮かび上がったのは「専門家である前に信頼できる伴走者であれ」というメッセージである。